鈴鹿の景況　2026 年上期
調査結果まとまる

景況は小幅悪化、先行きと利益に慎重感。

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

（総　　括）

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年１月と７月に景気動向調査を行っている。このたび２０２６年上期（１月～６月期）の調査結果がまとまった。

全体の景気動向として、前期調査（２０２５年７月～１２月期）と比較すると、ＤＩ値は△23.0 となり、前期調査時（△22.3）に比べ 0.7 ポイント悪化する結果となった。経営上の問題点では「原材料高及び不足」（43.0%）、「売上・受注の停滞減少」（42.7%）、「人手不足」（31.0%）が上位となり、コスト上昇や需要の弱さ、人材確保の難しさが経営を圧迫している。

業種別の経営上の問題点では、製造業・建設業・飲食業で「原材料高及び不足」、卸売業・小売業・サービス業で「売上・受注の停滞減少」が上位となり、業種により課題に差がみられた。

また、見通しＤＩ値は△34.1（前期△30.7）となり、3.4 ポイント悪化した。原材料価格や人件費等の上昇に加え、売上・受注の停滞や人手不足への懸念が続いており、今後の業況は依然として不透明である。

（対象　1,547 社　回答企業　392 社、　回答率 25.3%）

ＤＩ値（ディフュージョン・インデックス）

ＤＩとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るためのものである。景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

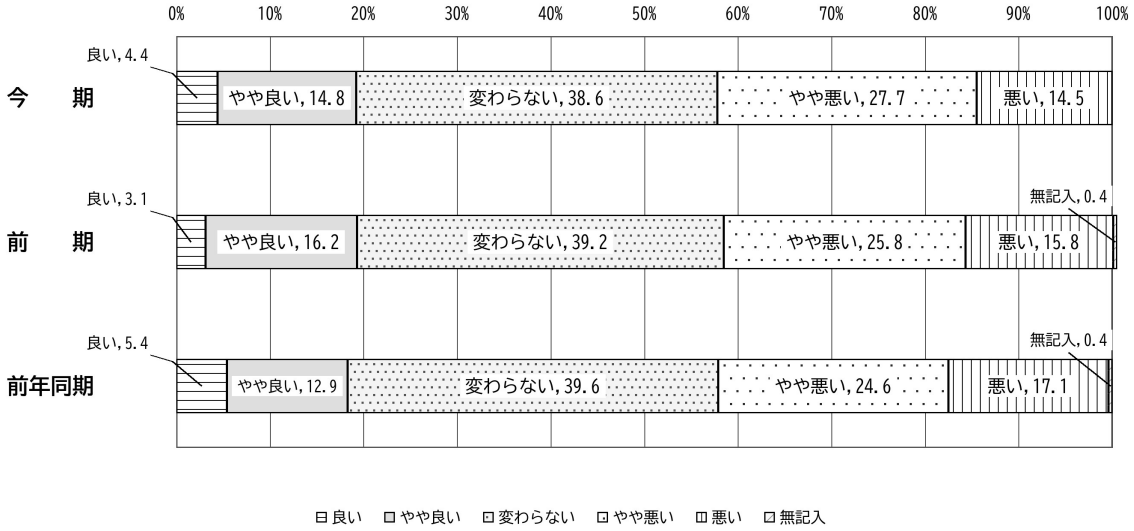
●現状の景気について　（図－１・３　参照）

「良い」「やや良い」は 19.2%（前期 19.3%：前年同期 18.3%）、「やや悪い」「悪い」は 42.2%（前期 41.6%：前年同期 41.7%）となった。

景気動向を示す DI 値は、△23.0（前期△22.3：前年同期△23.4）と前期より 0.7 ポイント悪化、前年同期より 0.4 ポイント改善している。

業種別の売上 DI 値では、サービス業△7.4、建設業△16.4、製造業△17.6、その他の業種△17.9、小売業△25.4、交通運輸業△33.3、卸売業△56.3、飲食業△58.3 となり、全業種でマイナスとなった。

図－１ 現状について



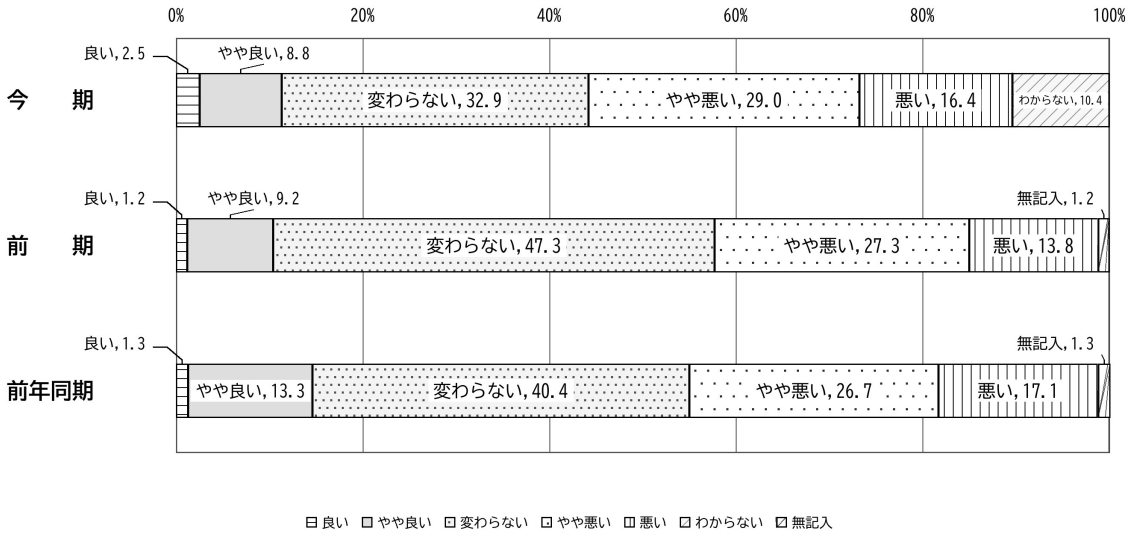
●今後の景気見通しについて　（図－２・３　参照）

「良い」「やや良い」は 11.3%（前期 10.4%：前年同期 14.6%)、「やや悪い」「悪い」は 45.4%（前期 41.1%：前年同期 43.8%）となった。

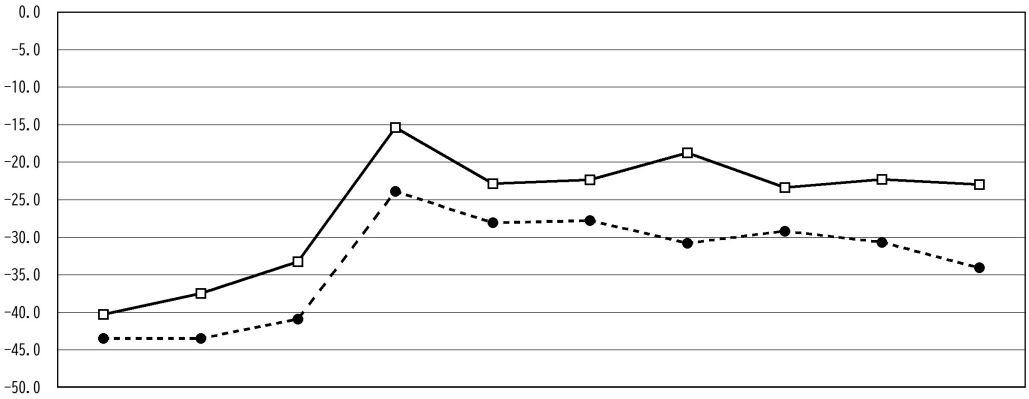
DI 値は、△34.1（前期△30.7：前年同期△29.2）と前期より 3.4 ポイント、前年同期より 4.9 ポイントいずれも悪化している。

業種別の売上見通し DI 値では、交通運輸業が 0.0 で最も高く、その他の業種△10.7、製造業△14.7、サービス業△22.2、建設業△33.6、卸売業△37.5、小売業△57.6、飲食業△66.7 となった。

図－２ 今後の見通し



図－３ 現状と今後の見通しの推移

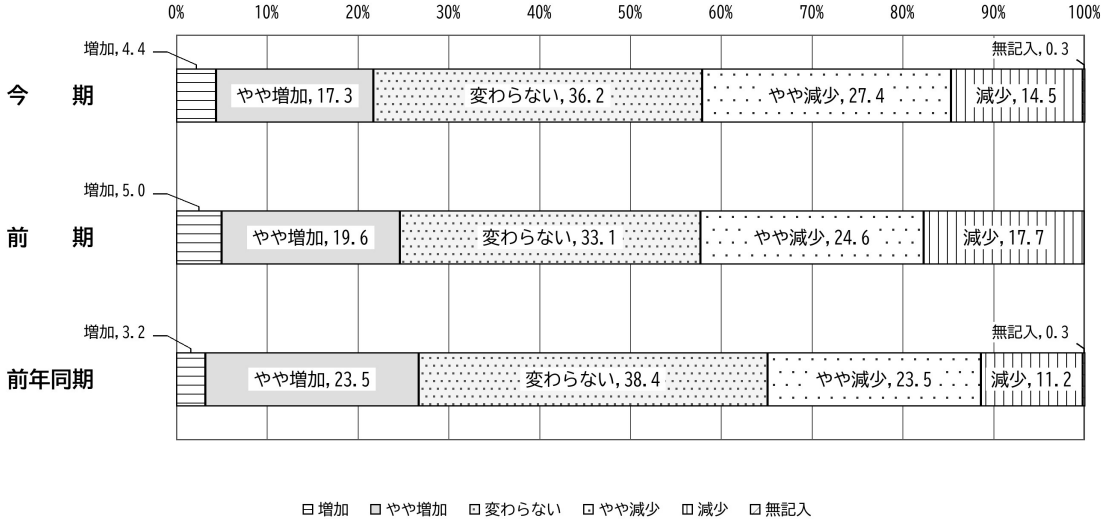


	R3下期	R4上期	R4下期	R5上期	R5下期	R6上期	R6下期	R7上期	R7下期	R8上期
現状	-40.3	-37.5	-33.3	-15.4	-22.9	-22.4	-18.8	-23.4	-22.3	-23.0
今後の見通し	-43.5	-43.5	-40.9	-23.9	-28.1	-27.8	-30.8	-29.2	-30.7	-34.1

●売上状況について　（図－４　参照）

「増加」「やや増加」は 21.7%（前期 24.6%：前年同期 26.7%）、「やや減少」「減少」は 41.9%（前期 42.3%：前年同期 34.7%）となった。DI 値は△20.2（前期△17.7：前年同期△8.0）と前期より 2.5 ポイント、前年同期より 12.2 ポイントいずれも悪化している。

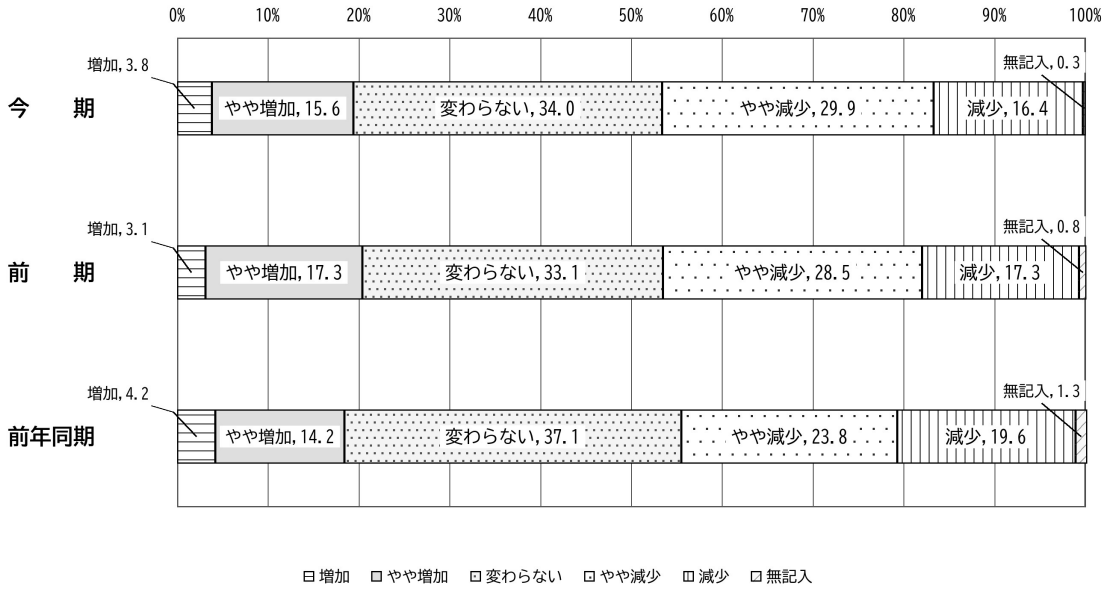
図－４ 売上状況



●利益状況について　（図－５　参照）

「増加」「やや増加」は 19.4%（前期 20.4%：前年同期 18.4%）、「やや減少」「減少」は 46.3%（前期 45.8%：前年同期 43.4%）となった。DI 値は△26.9（前期△25.4：前年同期△25.0）と前期より 1.5 ポイント、前年同期より 1.9 ポイントいずれも悪化している。

図－５ 利益状況



経営上の問題点（上位３位）

（%）

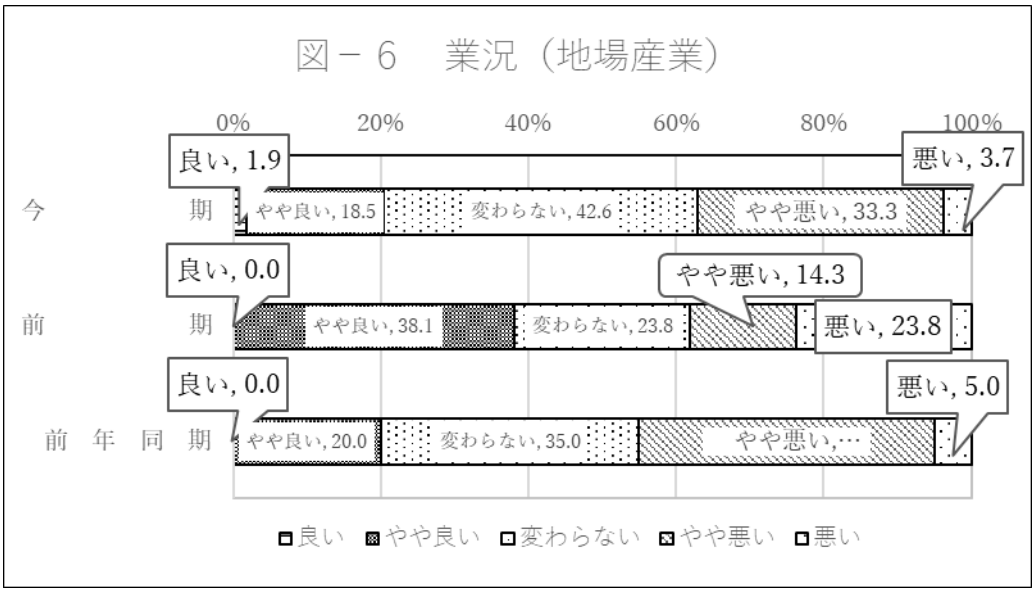
		第　　1　　位	第　　2　　位	第　　3　　位
業種別	製　造　業	売上・受注の停滞減少 原材料高及び不足	設備店舗の狭小老朽化	人手不足
		(47.1)	(35.3)	(29.4)
	卸　売　業	原材料高及び不足	売上・受注の停滞減少	設備店舗の狭小老朽化 人材育成
		(56.3)	(43.8)	(18.8)
	小　売　業	売上・受注の停滞減少	原材料高及び不足	競争激化
		(52.5)	(33.9)	(22.0)
	建　設　業	原材料高及び不足	人手不足	売上・受注の停滞減少
		(50.0)	(46.7)	(35.2)
	飲　食　業	原材料高及び不足	売上・受注の停滞減少	設備店舗の狭小老朽化
		(75.0)	(58.3)	(33.3)
	サービス業	売上・受注の停滞減少	原材料高及び不足	人手不足
		(48.1)	(31.5)	(27.8)
	交通運輸業	売上・受注の停滞減少 人手不足	原材料高及び不足	人件費の増加 人件費以外の経費増加 競争激化
		(50.0)	(33.3)	(16.7)
	その他	人件費以外の経費増加	売上・受注の停滞減少 人手不足 原材料高及び不足	設備店舗の狭小老朽化
		(35.7)	(25.0)	(21.4)
総　　合		原材料高及び不足	売上・受注の停滞減少	人手不足
		(43.0)	(42.7)	(31.0)
前年同期		売上・受注の停滞減少	人手不足	原材料高及び不足
		(40.0)	(31.5)	(31.2)

地場産業―自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

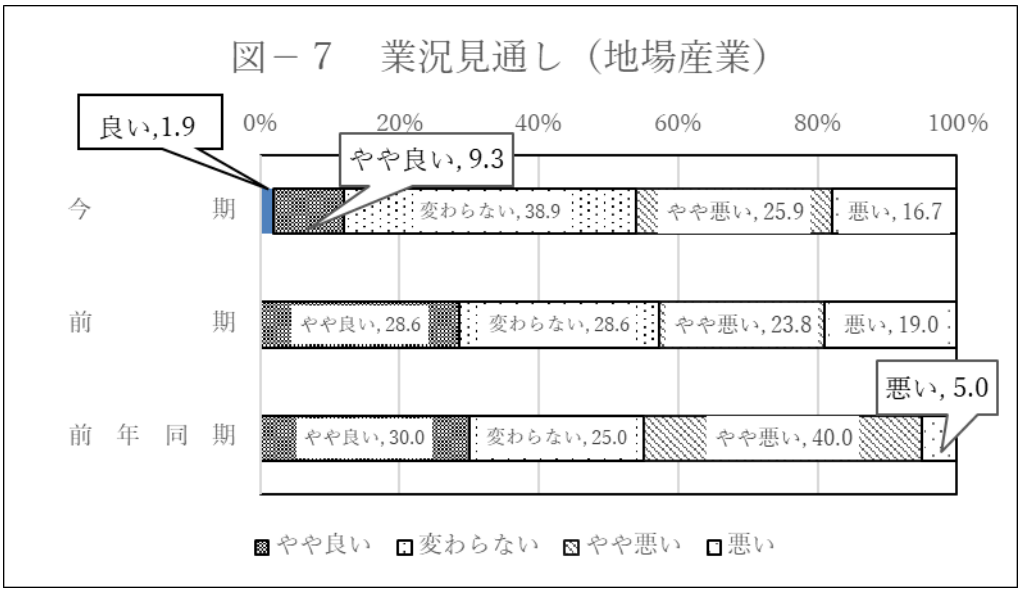
ａ）現状の業況について　（図－６　参照）

「良い」「やや良い」は 20.4%（前期 38.1%：前年同期 20.0%)、「やや悪い」「悪い」は 37.0%（前期 38.1%：前年同期 45.0%）となった。DI 値は△16.6（前期 0.0：前年同期△21.1）と前期より 16.6 ポイント悪化、前年同期より 4.5 ポイント改善している。



ｂ）今後の業況見通しについて　（図－７　参照）

「良い」「やや良い」は 11.2%（前期 28.6%：前年同期 30.0%)、「やや悪い」「悪い」は 42.6%（前期 42.8%：前年同期 45.0%）となった。DI 値は△31.4（前期△14.2：前年同期△15.0）と前期より 17.2 ポイント悪化、前年同期では 16.4 ポイント悪化している。



●売上状況と今後の見通しについて

ａ）売上状況について

「増加」「やや増加」は 22.2%（前期 47.6%：前年同期 30.0%）、「やや減少」「減少」は 38.9%（前期 28.6%：前年同期 45.0%）となった。DI 値は△16.7（前期 19.0：前年同期△15.0）と前期より 35.7 ポイント悪化、前年同期より 1.7 ポイント悪化している。

ｂ）売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 16.7%（前期 42.9%：前年同期 25.0%）、「やや減少」「減少」は 38.9%（前期 28.6%：前年同期 40.0%）となった。DI 値は△22.2（前期 14.3：前年同期△15.0）と前期より 36.5 ポイント悪化、前年同期より 7.2 ポイント悪化している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 29.6%（前期 38.1%：前年同期 35.0%）、「やや減少」「減少」は 37.0%（前期 33.3%：前年同期 45.0%）となった。DI 値は△7.4（前期 4.8：前年同期△10.0）と前期より 12.2 ポイント悪化、前年同期より 2.6 ポイント改善している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所
TEL：０５９－３８２－３２２２
FAX：０５９－３８３－７６６７